

### 第三章 壊していく海 サンゴの白化 磯焼け

いそや

#### ◇二ライ・カナイ 沖縄

ボクにとつて沖縄の海は特別です。

なぜなら、生まれて初めて潜ろうとして潜れなかつた悔しい思い出があり、その悔しさを晴らすためにダイビングを始め、ついにはプロダイバーになつたきっかけの地でもあるからです。

もちろん、それだけではありません。

沖縄の海やサンゴ礁の美しさは、世界でも5本の指に入るといわれています。著名な海洋学者やダイバーの中には、「沖縄が世界一だ」と言う人が少なくありません。ボクもその一人です。

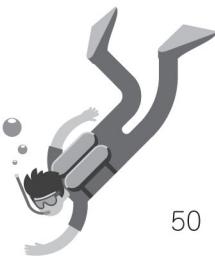


沖縄、八重山群島の海に広がる見事な造礁サンゴ。しかし、よく見ると白くなりかけている部分や瓦礫のようになってしまっている部分がある

澄み切った海の中、見事に広がる美しいテーブルサンゴは、まさに「二ライ・カナイ」（沖縄の言葉で「海の彼方の楽園」という意味）。昔話に出てくる龍宮城ではありませんが、「絵にもかけない美しさ」という表現がぴったりなのです。

たとえば、沖縄ではサンゴを食べ続けられています。

そんな美しい沖縄の海ですが、さまざまなかな變化や、数々の試練にさらされ続けています。





え、海水に溶け込む二酸化炭素の量が増えると、「海の酸性化」という問題も起きます。

すると、カニやエビなどの甲殻類、貝、サンゴなどはカルシウムの形成に障害を起こしてしまいます。

ちょっと難しい話になりましたが、今、海の中で起きていることは、だれにとつても他人事ではありません。地球上すべての生き物に関係しているということを理解し、自分のこととして考えてほしいのです。



瀬戸内海に浮かぶ山口県上関町の祝島の海中。豊かに茂る海藻の森も、今は深刻な磯焼けに襲われている

さらに、石油や石炭火力発電、石油製品の使用によつて、二酸化炭素の排出量は年々増加しています。そのため、大気中の二酸化炭素の量は益々濃くなり、地球温暖化が加速してしまうのです。

また、大気中に二酸化炭素が増

く残つてしまします。

くれますが、海藻や植物プランクトンの数が減ればどうなるでしょう。海の二酸化炭素の吸収力が落ち、結果として大気中に二酸化炭素が多

もし、イルカを見たいと思うのなら、狭いプールに閉じ込められたイルカではなく、  
イルカウォッキングに参加してみるのはどうでしょう。

に、仲間や家族と引き離されたらどうでしょう。

水族館のイルカのほうが、野生のイルカより早く死んでしまうという調査結果もあります。自分がイルカだつたらと考えれば、早死にしてしまう理由も分かります。

イルカショーを見て、「イルカが嬉しそうに笑っている」という人がいますが、イルカは口角が上がっているため、角度によつては顔つきが笑顔のように見えるだけのことです。

しょう。自由に泳ぐことができなくなります。



自由に泳ぐイルカ

広い海に暮す場合はそれが役立ちますが、狭いプールの中におしこめられてしまつたらどうでしょう。反射して苦しんだりしないのでしょうか。

また、水族館で多いバンドウイルカは「泳ぎの達人」たつじんの別名べつめいを持つており、

胸が締め付けられる思いがします。